

いっしょに「生きる」こと

学校所在府県：滋賀県

学校名：野洲市立中主小学校

名前：川本 遥

実践教科：学級活動

指導時数：7時間

対象学年：小学6年生（1クラス）

対象人数：32人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

(1) 「おなじ」でも「ちがう」でもないものとの向き合い方

ブラジルで初めて出会うものごとに、「これは、日本でいう何だろう？」と、知っているものに置き換えようとしている自分に気づいた。遠く離れた国ブラジルで、日本と「おなじ」もの、「ちがう」ものに出会うことは、もちろん、とてもおもしろく楽しい。でも、「おなじ」や「ちがう」ものだけでなく、そのどちらでもないものもあり、その発見こそが刺激的でおもしろいのだと実感できた2週間であった。

世界には、わからないこと、共感できないこともあって当たり前で、それがおもしろく、難しいことなのだと感じた。初めて何かと出会ったとき、無理にあてはめようとしたり、無理に共感しようとするのが大切なのではなく、自分自身に近付けて考えようとしたり、「どうして共感できないのだろうか？」と自分を振り返りながら向き合うことこそが大切なのだろう。それこそが、自分とはちがう誰かと「いっしょに『生きる』」ために大切なことなのではないかと、強く感じた。

(2) 自分のルーツや家族の歴史を知ることの大切さ

多くの日系人の方と出会い、お話をする中で、移民の方の苦しみや葛藤、そこからくる強さが伝わってきた。私たちが想像する以上の、苦勞と努力の歴史、そしてそれぞれの家族の物語があったのだと思う。家族の歴史を愛おしそうに語ってくださる表情は、とても穏やかで、またとてもたくましく見えた。

彼らとの出会いで、自分のルーツや家族の歴史を知るとは、自分を大切にできる心や、懸命に生きる強さを生むのだと感じた。「何年に何をした」という単なる年表ではなく、その時に自分の家族はどんなことを思い、どんなことを願っていたのか…という家族の歴史を知ること、知ろうとすることが大切なのだと思う。そうすれば、もっと自分や自分の家族のことを愛おしく、大切に思えるのではないだろうか。子どもたちに世界に目を向けさせたいと思って参加したこの研修だが、それだけでなく、すぐ側にいる家族や自分自身についてもじっくりと深く考えさせたいと思うようになった。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

子どもたちの中には、「外国語＝英語」、「外国＝先進国」と捉えている子、自分の当たり前とは「ちがう」ものに出会うと「変」と感じ受け入れようとしないう子どももいるように感じている。そんな子どもたちに、視野を世界に広げ、新しいことを知ること、自分にとっての当たり前が当たり前ではないことに気付くことは、おもしろく楽しいことであることに気づいてほしいと思っている。

そこで、次の3点を目的として、授業実践をしていくこととした。

- ①ブラジルについて知り、新しく知ることのおもしろさや楽しさ、「ちがう」の豊かさに気づくこと。
- ②日本とブラジルのつながりや、日本に住む外国人のことを知り、「いっしょに生きる」素晴らしさに気づくこと。
- ③「いっしょに生きる」ために自分にできることを考えること。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 ブラジルを知ろう① ～フォトランゲージ編～ *ブラジルの子どもたちの生活の様子を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●グループで写真を見て、気づいたことや疑問に感じたことを話し合う。 ●写真の解説を聞き、ブラジルの子どもたちの生活の様子を知る。「あたりまえ」の違いや、「ちがい」のおもしろさに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルの国旗 ●ブラジルで使われている世界地図 ●滋賀県国際協会 ブラジルボックス 写真教材 ●ピアスをつけた赤ちゃん人形
2 時限目 ブラジルを知ろう② ～ブラジルクイズ編～ *日本とのつながりに気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ●クイズ「これは何?」「これは何に使うもの?」「これは日本? ブラジル?」をし、ブラジルの文化や日本とのつながりを知る。 ●クイズ「解いてみよう (ブラジルの筆算)」をし、「ちがい」のおもしろさに気づく。 ●移住斡旋ポスターを見て、移民の歴史や日系社会に興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コーヒー生豆、カカオ豆 ●ピラルクの写真、うろこ ●写真 ●ブラジルの筆算問題 ●Boss 缶コーヒー「BRAZIL SELECTION ブラジルの宝石」 ●meiji「ALMOND」 「アグロフォレストリーチョコレート」 ●移住斡旋ポスター
3 時限目 ブラジルと日本のつながりを知ろう① ～移民編～ *移民の歴史と日系社会について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●DVDを見て移民について知り、2 時間目の写真やものの意味を知る。 ●カルタの解説を聞いて、移民の歴史や日系社会について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●移住斡旋ポスター ●DVD「子供たちの百年 ブラジルに渡った少年少女は、今!」 ●テレビ東京ガイアの夜明け「ニッポンの生きる道第4弾」 ●移民カルタ
4 時限目 ブラジルと日本のつながりを知ろう② ～日本に住む日系人編～ *日本に住む日系人について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●日本に住む外国人の現状を知る。 ●紙芝居を聞いて、日本に住む外国人が抱える問題を知る。 ●やさしい日本語による案内文や教材などを見て、多文化共生のための取り組みを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本に住む外国人についてのデータ ●紙芝居『カリナのブラジルとニッポン』 ●日本に住む外国の子どものための教材 ●やさしい日本語による案内文
5 時限目 わたしの「生きる」を考えよう *自分の人生観を見つめる。	<ul style="list-style-type: none"> ●谷川俊太郎『生きる』を鑑賞し、自分の「生きる」を作詩する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「生きる わたしたちの思い」 谷川俊太郎 with friends 角川マガジンズ
6 時限目 みんなの「生きる」を知ろう *様々な人生観を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルの小学生やブラジルで活躍する日系人の「生きる」を鑑賞し、様々な「生きる」に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルで集めた「生きる」
7 時限目 いっしょに「生きる」ことを考えよう *いっしょに「生きる」ためにできることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ●非識字体験ゲームをし、言葉がわからないことで生じる不安な気持ちを体験する。 ●いっしょに「生きる」ためにできることを考え、5 時間目の詩の続きを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●非識字体験ゲーム「ここは、何色?」「はじめてのお見舞い」 (国際教育研究会 Global net Shiga 開発教材)

3. 授業の詳細

1 時限目：ブラジルを知ろう① ～フォトランゲージ編～

ねらい…ブラジルの子どもたちの生活の様子を知る。

◆内容◆

- ① グループで写真を見て、気づいたことや疑問に感じたことを話し合う。
- ② 写真の解説を聞き、ブラジルの子どもたちの生活の様子を知る。「あたりまえ」の違いや、「ちがい」のおもしろさに気づく。

！ココがポイント

- (1) 写真をじっくり観察し、たくさんの気づきや疑問が出るように、時間を十分に取った。
- (2) 同じものを見てもいろいろな捉え方があることに気づけるように、交流の時間を大切にしました。
- (3) 写真は、子どもたちにとって身近な「学校生活」「子どもの生活」にしぼった。現地で撮ったたくさんの写真は、コメント付きのアルバムにして教室に置き、子どもたちが自由に見られるようにした。

児童の反応

- ▶ 赤ちゃんや子どもがピアスをしていることに気づき、「なんで～?」「いいの?」「あかんやん!」と、子どもたち。ピアスをつけた赤ちゃん人形を見せながら、「女の赤ちゃんが生まれるとお守り代わりにピアスを贈る習慣があるんだよ。」と説明すると、「へえ～…」と驚きと納得の混ざったような声が聞こえた。
- ▶ 「制服やランリュックがない!」「(車輪付きの)ガラガラかばんが人気なんかな?」と気づいた子どもたち。「どうして、タイヤのついたかばんを使うのかな?」と声をかけると、「どっか行くの?」「重いの?」と想像を膨らませていた。「ブラジルの学校は2・3部制で、自分の持ち物を置いたままにはできなくて、毎日持ち歩くんだよ。」と説明すると、「だから引き出しもないんや!」と納得していた。
- ▶ 学校の前白い建物(ガードマンボックス)を、「トイレ? 公衆電話?」と日本にもある何かと置きかえて考えていた子どもたち。「ガードマンボックス」と説明すると、「(日本にはないから)そりゃ、わかるわけないやん～!」という声があがった。

◆所感◆ 子どもたちは、初めて見る写真の中のブラジルの風景に、目を輝かせていた。どの子どもたちにとっても身近である「学校生活」を取り上げたので、「おなじ」や「ちがい」を感じやすく、「不思議!」「おもしろい!」と、楽しめたようであった。「他の写真も見たい!」という声も聞こえ、興味関心の高まりが見られた。

2 時限目：ブラジルを知ろう② ～ブラジルクイズ編～

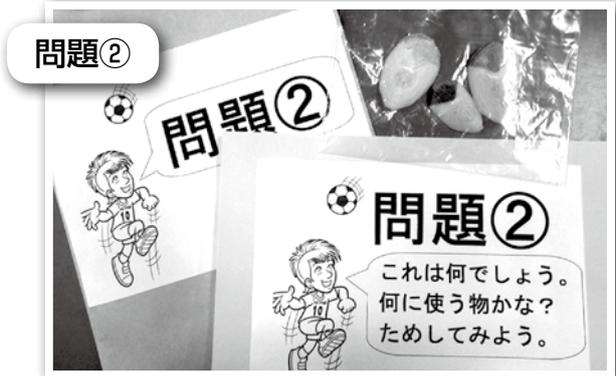
ねらい…日本とのつながりに気づく。

◆内容◆

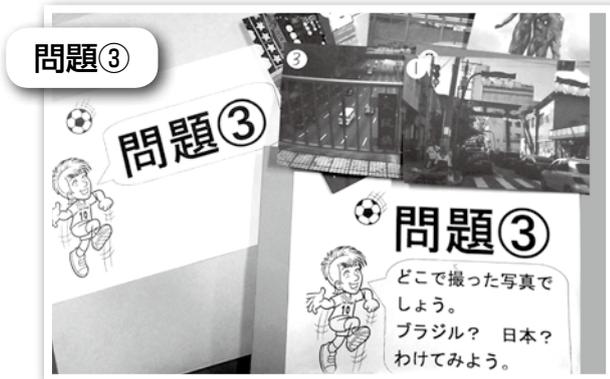
- ① クイズ「これは何?」「これは何に使うもの?」「これは日本? ブラジル?」をし、ブラジルの文化や日本とのつながりを知る。
- ② クイズ「解いてみよう(ブラジルの筆算)」をし、「ちがい」のおもしろさに気づく。
- ③ 移住斡旋ポスターを見て、移民の歴史や日系社会に興味を持つ。



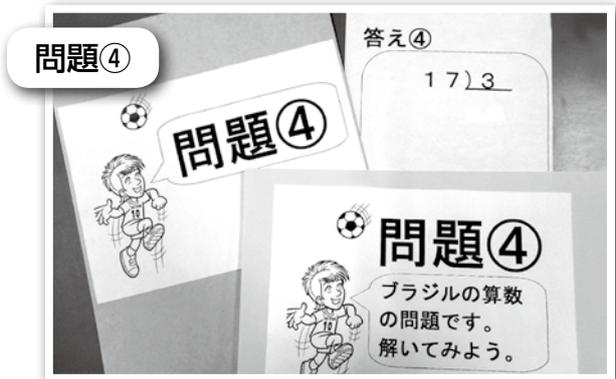
観察したコーヒー生豆・カカオ豆



観察したピラルクのうろこ



ブラジルと日本にわけた写真



ブラジルの筆算の方法

！ココがポイント

- (1) 紹介したいものはたくさんあるが、「日本とブラジルのつながり」や、「ちがっておもしろい」と感じられるものに厳選した。
- (2) 次の時間の移民の歴史の学習に興味を向けられるように、「今から106年前、日本にはこんなポスターがはられていました。このポスター、どういう意味かな？」と、移民斡旋ポスターを見せ、授業を終えた。



ブラジルクイズと各班の答え



児童の感想

- ▶ 予想していた答えと違ってびっくりしました。ブラジルは不思議でおもしろい！
- ▶ クイズをして、日本とブラジルはすごくつながっているということがわかりました。でも、魚のうろこを爪やすりやピアスに使うこととか、全然違うところもあるのがおもしろいなと思いました。
- ▶ 同じ答えなのに、算数の割り算の仕方が逆で不思議でした。他にも日本と逆のものがあるのかな？もっと知りたいです。
- ▶ ブラジルと日本がこんなにつながっているなんて初めて知りました。なんでこんなにつながっているのか、知りたいです。最後に見たポスターがどういう意味か、すごく気になります！

◆所感◆ 「次は何が入っているのかな？」と、問題の入った封筒をわくわくしながら開ける姿が見られた。匂いだり触ったり、いろんな想像を膨らませながら、ブラジルと日本のつながりに気づいてくれたように思う。子どもたちの感じる力や考える力の大きさに、改めて気づかされた。

3 時限目：ブラジルと日本のつながりを知ろう① ～移民編～

ねらい…移民の歴史と日系社会について知る。

- ◆内容◆ ① DVD を見て移民について知り、2 時間目の写真やものの意味を知る。
- ② カルタの解説を聞いて、移民の歴史や日系社会について理解を深める。

児童の反応

- ▶ 2 時間目のブラジルクイズで気づいた、日本とブラジルとのつながりの理由がわかり、「そういうことか〜。」と納得の声や、「そんなに前から？」と驚きの声が聞こえた。
- ▶ カルタゲームを楽しみながら、「ブラジルだけじゃないの？」と、ブラジル以外の国にも移民したことに気づき、驚いていた。



▲移民カルタ

◆所感◆ DVD やカルタからの情報だけでなく、ブラジルで出会った方から実際に聞いた話を写真と共に紹介した。子どもたちの一生懸命に話を聞く姿から、「先生が実際に会った人の話」というのは、子どもたちにとってより身近で、心に響くものなのだと実感した。

4 時限目：ブラジルと日本のつながりを知ろう② ～日本に住む日系人編～

ねらい…日本に住む日系人について知る。

- ◆内容◆ ① 日本に住む外国人の現状を知る。
- ② 紙芝居を聞いて、日本に住む外国人が抱える問題を知る。
- ③ やさしい日本語による案内文や教材などを見て、多文化共生のための取り組みを知る。

児童の反応

- ▶ 日本にたくさんの外国人が生活していることを知らなかった子どもがほとんどで、滋賀県には特にブラジルの人がたくさん住んでいることを知り、驚いていた。
- ▶ 2 時間目の算数の筆算の問題を思い出して、「日本バージョンなら余裕なのに、やり方が違ってたまされた気分やった。」と話す姿も見られた。

◆所感◆ 問題点だけでなく、多文化共生のための取り組みも紹介し、「いっしょに『生きる』」ために、たくさんの工夫がなされているという、前向きな面も伝えるようにした。ブラジルクイズでの悔しかった気持ちを思い出して、自分と重ね合わせながら相手のことを考える姿も見られ、とても嬉しく感じた。

5 時限目：わたしの「生きる」を考えよう

ねらい…自分の人生観を見つめる。

- ◆内容◆ ① 谷川俊太郎『生きる』を鑑賞し、自分の「生きる」を作詩する。

◆所感◆ 難しく感じる子どもも少なくはなかったので、「生きる わたしたちの思い」から、いくつかの作品を紹介した。授業の時間だけで考えるのではなく、普段の生活や家族や友だちとの関わりの中から自分の「生きる」を見つめ、深められるような工夫が必要だと感じた。

6 時限目：みんなの「生きる」を知ろう

ねらい…様々な人生観を知る。

- ◆内容◆ ① ブラジルの小学生やブラジルで活躍する日系人の「生きる」を鑑賞し、様々な「生きる」に気づく。

◆所感◆ 同じ年代の子どもたちが考えた「生きる」には、「同じだなあ。」と共感し、住んでいる国は違っても、同じことに幸せを感じているのだと実感できたようだ。また、ブラジルで活躍する日系人の「生きる」を紹介する際には、その方の願いやこれまでの努力を写真と共に話した。それぞれの「生きる」の背景には、それぞれの物語があることに気づいたようであった。「他の国の『生きる』も知りたいな。」「自分の家族の『生きる』も知りたいな。」という気持ちが芽生えるきっかけになっ



▲ブラジルの生きるが書いてあるカード

7 時限目：いっしょに「生きる」ことを考えよう

ねらい…いっしょに「生きる」ためにできることを考える。

- ◆内容◆ ① 非識字体験ゲームをし、言葉がわからないことで生じる不安な気持ちを体験する。
② いっしょに「生きる」ためにできることを考え、5 時間目の詩の続きを作る。

◆所感◆ 自分の「生きる」も、自分とはちがうみんなの「生きる」もどれも大切だということ、「ちがいがい」や「不安な気持ち」に寄り添い、一人ひとりを理解しようとするのが「いっしょに『生きる』」ために大事なことだと感じ、これからの行動につながっていくことを願っている。

4. 成果 資料1 振り返りシート

授業後の「振り返りシート」では、感想とともに、子どもの感じたことをサッカーのシュートに例え、「びっくり点」「おもしろいなあ点」、自分で考える「〇〇点」とその理由を書かせるようにしてきた。「不思議点」「すごい点」「いいな点」などを付ける姿から、新しく知ることの楽しさやおもしろさ、「ちがいがい」の良さを感じてもらえたのではないかなと思う。また、「わからない点」「もっと知りたい点」で、さらに深く知りたいという気持ちを表す姿も見られ、嬉しく感じた。この授業が、世界に視野を広げながら様々な「生きる」を見つめ、「いっしょに『生きる』」ことの素晴らしさを感じるきっかけとなることを願っている。

5. 課題

ブラジルでたくさんの学びがあった分、どんなねらいを持ち、どんなふうに授業を組み立てていけばいいのか、悩み、迷った。目の前にいる子どもたちにどんな力をつけさせたいのか、そのためには何を教材にすればいいのかをしっかりと考え、選ぶ必要があると感じた。これから出会う子どもたちとも、この夏のブラジルでの体験とも、丁寧に向かい合いながら、授業実践を続けていきたいと思う。

感想 感じたことや考えたことを書きましょう。

名前()



ゴールに入れよう!!
3点なら...

「びっくり」点 理由

「おもしろいなあ」点 理由

「〇〇」点 理由

↑ 最後のシュートは自分で考えよう。

▲振り返りシート

参考文献 「開発教育実践ハンドブック 参加型学習で世界を感じる」 開発教育協会
「生きるわたしたちの思い」 谷川俊太郎 with friends 角川マガジズ

参考ホームページ 滋賀県国際協会 JICA 横浜海外移住資料館